

事業報告書

第 16 期 (2017 年度)

自 2017 年 4 月 1 日

至 2018 年 3 月 31 日

京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

認定特定非営利活動法人 リボーン・京都

第16期（2017年度）事業報告

認定特定非営利活動法人 リボン・京都

I. 事業成果の概要

7月にルワンダへ一般財団法人ゆうちょ財団の助成を受けて洋裁専門家の川崎チイとプロジェクトマネージャーの高道由子を派遣し、ガユリロ職業訓練センターの修了生18人にフォローアップ訓練を行いました。川崎チイは当校に第3期のリボン京都の洋裁技術訓練に派遣された経験を活かし、又プロジェクトマネージャーの高道由子は当会の2年目のインターン生でしたが、現地12日間の短期訓練を、熱心に行った事が後ほど送られてきた訓練生達の作品から高く評価されました。

その後12月にもルワンダにフェアトレードの教材を送りました。私達は当会の指導した訓練生がルワンダで職を得て収入が得られるように、又ルワンダのファッション界をリードできる人材を育てるように頑張っています。

ラオスのサバナケート職業訓練所では、姉妹校であるセポン校の洋裁科は生徒の応募が増え30名になりました。セポン校には当会が育成した修了生が洋裁専門家の先生になり指導しています。京都ではラオス人の内藤ケンペット氏にラオスに送る教材の翻訳などの仕事をお願いしています。

東日本大震災被害者の支援は、京都に避難している被災者と仙台に帰郷した被災者2名とフェアトレード形式による洋裁技術フォローアップ指導を継続しています。

洋裁指導の教材に活用される不要な絹着物の寄贈は、今年も1月～2月に限り集荷し、着物保管料として、段ボール1箱につき3000円のご寄付もご協力いただきました。

訓練生の製作した作品のチャリティバザーは昨年と同様の売り上げがありました。

広報啓発事業の活動では、担当のインターンの高道が率先して大学、高校や市民団体に働きかけワークショップや講演を行い、リボン・京都の広報啓発活動をおこないました。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 小玉昌代

II. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 洋裁指導事業

① 高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プログラム（フォローアップ指導）

実施期間	2017年7月3日～2017年7月12日		
実施場所	ルワンダ共和国キガリ市 ガチュリロ職業訓練センター		
対象者	首都キガリの若年ユース貧困層 18名（16～35歳）		
従事者人数	事業従事者 8名（国内4名、海外2名、現地スタッフ2名） 国内作業従事者 20名 <現地派遣状況> 現地事業責任者、事業担当（洋裁技術） 各1名 2017年7月～2018年3月		
助成金額	800,000円	助成元	一般財団法人ゆうちょ財団
支出額	2,536,484円 ※		
事業内容	フェーズ 1, 2, 3 に引き続き、ルワンダの首都キガリで若年貧困層を対象に高度な日本の洋裁技術訓練を行い、雇用、収入の創出を目指す。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 高度な日本の洋裁技術習得訓練（上級コース） 教材は1回目のフェアトレード作品のうち5種類のデザイン（着物トレンチコート、着物ジャケット、着物ブラウス、ギテングワンピース、着物地ブルゾン）の製作を指導した。 ▪ 現地洋裁専門家へのTOT（Training of Trainer 専門家育成） Zawadi Nyinawumantu, Deogratias Ndindiriyimana の2名 ▪ Made in Rwanda 製品の製作・販売 ▪ 3次訓練修了生のフォローアップ ▪ 品質評価と日本に送られてきた訓練生の不良な作品の部分の指導を日本から派遣された川崎チイより指導をした。 ▪ 作品の出来栄えによって奨励金から減額を行った。また、トレンチコートなどの技術を要する作品と他の作品との、奨励金の差別化も実施した。 		
成果	<p><実施内容> フェーズ 3 は上級コース修了という位置づけで、基礎力を既に持つ 18名の訓練生に対して高度な技術指導である製図指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 高度な日本の洋裁技術習得訓練の実施。 ✓ 9日間平均一日6時間訓練した。 ▪ 現地洋裁専門家へのTOT(Training of Trainer 専門家育成) ✓ ルワンダのファッション産業のリーダーになれるようフォローアップした。 ▪ Made in Rwanda 製品の製作販売 ✓ 訓練生の職場訪問をした。 ▪ 品質評価 ✓ 10月に日本に送られて来たフォローアップ指導作品とフェアトレード作品 30着を日本でチェックして4着の不良作品にとどまった。前回は50着中35着がお直しだったが、今回のフォローアップの指導で技術が向上した。 		

※フェアトレード2回分含む

② ラオス サバナケート県立職業訓練校 セポン校洋裁科

実施期間	2017年4月～2018年3月		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校 セポン校 洋裁科		
対象者	同校洋裁科の生徒30名、教員3名		
従事者人数	事業従事者4名 国内作業従事者27名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	-		
事業内容	2016年11月、当会の長年のカウンターパートであるサバナケート県立職業訓練校の新キャンパスがセポン市に設立され、洋裁科の教師としてリボン修了生の現地洋裁専門家3名が同校と兼務して教鞭を取っている。当会は後方支援として教師達をサポートする事となった。		
指導内容	襟なし前開きブラウス、弁当袋、かえる等の簡単な基礎的教材を提供した。 これまでは一律で支給していた奨励金を、作品の出来栄えによって減額した。		
成果	新キャンパスの生徒の平均年齢は従来よりも若い15歳前後である事を鑑みて基礎力を付けるためスターターキットの配布を行い、新キャンパスがスムーズに始動出来るよう協力した。今後は現地教師達と相談し、支援していく。		

③ 環境保全活動事業 (洋裁指導教材として活用)

実施期間	2017年1月～2月期間限定																														
実施場所	リボン・京都 日本事務局 (G&Gビル 久保方5F)																														
対象者	日本全国の着物保有者																														
従事者人数	国内作業従事者27名																														
助成金額	-	助成元	-																												
支出額	120,000円 (保管料)																														
事業内容	不要になった古着物の寄贈を募ることで、廃棄の際に輩出されるCO2軽減に貢献し、環境に配慮する。寄贈された着物は、種類別に仕分け保管し、必要に応じて選び出し、海外事業地での洋裁指導教材として活用。																														
成果	<p>会誌、イベントを通じて古着物の寄贈を呼びかけ、全国から多くの着物が届いた。保管場所不足の為、今年も受付期間(1月と2月)を設けた。着物保管料として3,000円(段ボール1箱につき)の寄付をお願いした。</p> <p>寄付をされた方々へ御礼状送付時に当会パンフレットと会誌を同封することで当会の活動を紹介した。</p> <p><2017年度 着物寄贈状況> 寄付者述べ人数：49名</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>○着物</td> <td>317点</td> <td>○喪服</td> <td>49点</td> </tr> <tr> <td>○夏着物(浴衣含む)</td> <td>74点</td> <td>○喪服帯</td> <td>24点</td> </tr> <tr> <td>○羽織</td> <td>159点</td> <td>○男物</td> <td>31点</td> </tr> <tr> <td>○帯</td> <td>150点</td> <td>○子供</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>○襦袢</td> <td>49点</td> <td>○その他(反物含む)</td> <td>80点</td> </tr> <tr> <td>○コート</td> <td>74点</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>1,011点</td> </tr> </table>			○着物	317点	○喪服	49点	○夏着物(浴衣含む)	74点	○喪服帯	24点	○羽織	159点	○男物	31点	○帯	150点	○子供	4点	○襦袢	49点	○その他(反物含む)	80点	○コート	74点					合計	1,011点
○着物	317点	○喪服	49点																												
○夏着物(浴衣含む)	74点	○喪服帯	24点																												
○羽織	159点	○男物	31点																												
○帯	150点	○子供	4点																												
○襦袢	49点	○その他(反物含む)	80点																												
○コート	74点																														
		合計	1,011点																												

(2) フェアトレード事業

① ルワンダ訓練修了生有志グループとのフェアトレード事業

実施期間	2017年7月から2018年3月（1回目7月、2回目12月）		
実施場所	ルワンダ共和国キガリ市 ガチュリロ職業訓練センター		
対象者	同校洋裁科修了生10名、教員2名		
従事者人数	事業従事者4名 国内作業従事者27名		
助成金額	-	助成元	一般財団法人ゆうちょ財団
支出額	洋裁指導フォローアップ事業に含まれる		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、当会より材料を送り、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 材料を準備・送付し、製作依頼をする。完成品に仕立て代を払う。 ▪ 完成作品に対して評価を行う。 ▪ フォローアップ指導を行う。 		
成果	<p>2013年より2016年まで外務省日本NGO連携無償資金協力を受けた。パターンや指示書、着物地等の必要材料を当会で準備・送付し、製作を依頼し、仕立て代を支払った。返送されてきた完成作品に対して評価を行い、評価結果は2017年実施の短期洋裁訓練時に現地で直接説明し、併せて指導を行った。7月フォローアップのフェアトレード作品33着のうち4着の不良品にとどまった。2回目は指導していないV字ワンピース10着、裏付ワンピース10着には不良品が多く、一度現地で製作したものは良いが初めてのデザインは難しいため、教え方を工夫する必要がある。これまで一律だった奨励金を出来栄によって減額した。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ フェアトレード（1回目）：洋服5アイテム ▪ フェアトレード（2回目）：洋服5アイテム、小物1アイテム 		

② ラオス・サバナケート県立職業訓練校とのフェアトレード事業

実施期間	年1回（5-8月）		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校洋裁科		
対象者	同校洋裁科の生徒31名、教員5名		
従事者人数	事業従事者3名 国内作業従事者27名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	153,663円（うち仕立て代：91,700円）		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者および現地教員が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、当会より材料を送り、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼らの収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ フェアトレード形式による洋裁技術フォローアップ指導 		
成果	<p>2007年 外務省日本NGO連携無償資金協力を受け、サバナケート県立職業技術訓練校に洋裁科を設立。3年に渡り同校で洋裁技術指導事業を実施し2010年1月に事業を終了した。その後、訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のために、同校とフェアトレード形式の指導を継続しており、本年度も実施。</p> <p>パターンや指示書、着物地等の必要材料を当会で準備・送付し、製作依頼。その後、返送されてきた完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行い、評価結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。ラオス人の内藤ケンペット氏に職業訓練所に指示書及び電話連絡を依頼している。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ フェアトレード形式による洋裁技術フォローアップ指導 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 洋服：4アイテム、小物：2アイテム 		

③ 東日本大震災被災者とのフェアトレード事業

実施期間	通年		
実施場所	リボン・京都 日本事務局		
対象者	東日本大震災の影響で京都に避難している被災者と帰郷した被災者		
従事者人数	事業従事者2名（京都1名、仙台1名）		
助成金額	-	助成元	-
支出額	55,572円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼女らの収入向上を図る。		
指導内容	フェアトレード形式による洋裁技術フォローアップ指導を実施した。		
成果	2013年～2015年まで東日本大震災の影響で京都に避難している被災者の方を対象とした洋裁ワークショップを実施し、フェアトレード形式の支援に変更した。前記ワークショップ参加者で帰郷した被災者へ仕立てを注文する支援活動も開始した。 <実施内容> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 訓練生に対する高度な洋裁技術訓練 ✓ 洋服：8アイテム 		

④ バザー事業

実施期間	通年 ※下記参照		
実施場所	※下記参照		
対象者	当会支援者および一般消費者		
従事者人数	国内作業従事者33名		
助成金額	-	助成元	-
収入額	4,385,421円		
事業内容	海外現地の洋裁訓練生や訓練修了生が製作した洋服や小物等をチャリティ展示即売会、バザー出店、ネット販売などの形式で販売し、市場で技術習得の成果を問う。収益は、訓練生の奨励金など活動資金に充当する。 購買層や売れ筋商品、お客様の声などを参考にした商品開発を心掛け、体型をカバーしたり着心地が楽な緩やかなシルエットの商品を、洋裁責任者の中島茂代を中心に、ファッション雑誌や他ブランドの商品を参考にしながら考案した。		
成果	高島屋京都店とジェイアール京都伊勢丹を含む百貨店でのバザーに加え、祇園祭とクリスマスセールを三田村店で開催した。 売上総額：4,385,421円（内訳は以下の通り）		

日程	バザー内容	
4月	阪急うめだ本店、ボストン等	563,095円
5月	JR伊勢丹京都店等	416,486円
6月	SALON ABC café 等	964,100円
7月	祇園祭セール等	560,283円
8月	竹中店等	225,300円
9月	三田村店等	72,050円
10月	remote year 等	137,840円
11月	ルワンダ大使館等	157,600円
12月	三田村店等	252,847円
1月	奈良木立バザー等	643,240円
2月	FNSチャリティバザー等	92,280円
3月	愛知パシイワ等	300,300円

⑤ 人材育成事業

実施期間	通年		
実施場所	リボン・京都 日本事務局		
対象者	1名		
従事者人数	事業従事者 13名（国内）		
助成金額	2,178,310円	助成元	NGO インターンプログラム
支出額	2,178,310円（青年海外協力協会）		
事業内容	NGO インターン高道の指導で国際協力分野における若手人材育成およびNGOによる国際協力拡充を目指しインターンを育成した。4月より11名（短期）、12月より1名（有給インターン）		
成果	主に、広報・啓発、フェアトレードとバザー事業の業務（商品開発、販売戦略も含む）をSNS活用の広報分野で活動した。		

(2) 啓発及び広報事業

① 広報支援事業（「Panasonic NPOサポート ファンド for アフリカ 2016」）

実施期間	2017年4月～2018年3月		
実施場所	リボン・京都 日本事務局他		
対象者	当会支援者および一般市民		
従事者人数	事業担当者 11名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	-		
事業内容	2014年から2年にわたり強化した広報活動が一時的なものとならないよう、SNSを活用した事業内容を発信した。イベント発信についてはHPやFacebookはもちろんのことInstagramを活用してこれまでとは異なる層に対する活動のアピールを行った。		

日程	内容	主催
4/18	私学家庭科教員勉強会講演（小玉・横田）	私学家庭科教員勉強会
6/16	京都チャリティ・ファンラン	京都チャリティ・ファンラン実行委員会
8/6	ワークショップ（高道・黒木）	認定NPO法人育て上げネット
9/1	立命館大学ナツボラ	立命館大学サービスラーニングセンター
	明治学園高等学校成果発表（小玉）	明治学園高等学校
12/17	「支縁堂」ワークショップ（中島）	京都市市民活動総合センター
12/4	ジェンダーウィーク講演（小玉）	京都外国語大学学生
2/5	国際協力報告会講演（高道）	一般財団法人ゆうちょ財団
2/10	FNSチャリティキャンペーン講演	京都CSRネットワーク
3/4	地域力おうえんアップフェア	文化市民局地域自治推進室地域づくり推進担当

②その他啓発・広報事業（京都チャリティ・ファンラン、支援者対応含む）

実施期間	通年
実施場所	京都府京都市 宝ヶ池公園いこいの森
事業内容	チャリティを目的とした一般の方対象のマラソン大会の運営を NICCO 他 NGO 団体と共に行い、当会事業活動により理解を深めてもらえるよう展示を行った。
成果	例年通りの京都チャリティ・ファンランに加え、大学生や一般の方との対面による交流会や講演の機会を多くいただくこととなり、新たな支援者拡大につながっている。 5月28日(日) 京都チャリティ・ファンラン 参加者数 967名 「第31回京都チャリティ・ファンラン」に参加。実行委員長 久保氏より 550,000 円の寄付金をいただいた。

収入：4,106,016 円

支出：1,006,016 円

寄付金：3,100,000 円（下記の団体に寄付されました）

公益社団法人 日本国際民間協力会	1,500,000 円
特定非営利活動法人 リボーン・京都	550,000 円
KIDs	550,000 円
国境なき医師団	500,000 円

その他の事業

	2015 年度	2016 年度	2017 年度
仕入商品売上	57,300 円	106,210 円	252,864 円
お仕立て	139,000 円	51,000 円	92,000 円
合計	196,300 円	157,210 円	344,864 円

III. 会務報告

1. 会員状況 (2018年3月31日現在)

	2015年度	2016年度	2017年度
正会員	51名	51名	50名
賛助会員	80名	87名	78名
ボランティア会員	5名	10名	9名

2. 役員状況 (2018年3月31日現在)

	氏名	常勤／ 非常勤	現職・所属	任期
理事長	小玉昌代	常勤	(特活)リボーン・京都 理事長 (社)日本国際民間協力会 理事	2016年6月1日～2018年5月31日
理事	中島茂代	常勤	(特活)リボーン・京都 洋裁指導責任者	2016年6月1日～2018年5月31日
理事	小野了代	非常勤	(社)日本国際民間協力会 理事長	2016年6月1日～2018年5月31日
理事	都留良子	非常勤		2016年6月1日～2018年5月31日
理事	渋谷みち子	非常勤		2016年6月1日～2018年5月31日
理事	白井幸則	非常勤	エールコーポレーション株式会社 代表取締役	2017年6月1日～2019年5月31日
理事	奥谷充代	非常勤		2017年6月1日～2019年5月31日
監事	山元直貴	非常勤	公認会計士	2017年6月1日～2019年5月31日

3. 職員状況 (2018年3月31日現在)

	有給専従職員	有給非専従職員 (インターン含む)	無給専従職員
国内	1名	0名	1名
海外	0名	2名	0名

海外：ラオス有給非専従現地職員：1名 ヨルダン有給非専従現地職員：0名

ルワンダ有給非専従現地職員：1名

4. 総会および理事会

<総会>

2017年度 通常総会

- 日時： 2017年5月27日（金）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 会議室
- 出席者： 40名（内28名は委任状出席）
- 審議事項： ① 2016年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2016年度 決算書類 承認の件
③ 任期満了に伴う役員専任の件
- 報告事項： 今年度の活動予定

<理事会>

2017年度 第1回理事会

- 日時： 2017年5月17日（水）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事7名
監事1名
- 審議事項： ① 2016年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2016年度 決算書類 承認の件
③ 2017年度 通常総会開催 承認の件
④ 任期満了に伴う役員選任の件
- 報告事項： 今年度の活動予定

2017年度 第2回理事会

- 日時： 2017年7月7日（金）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事6名、監事1名
- 協議事項： 2016年度 事業状況と決算見込み

2017年度 第3回理事会

- 日時： 2018年3月26日（月）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事6名
監事1名
委任状出席1名
- 審議事項： ① 2018年度 事業計画
② 2018年度 予算案
- 報告事項： 2017年度事業状況と決算見込み

(ア) 会誌発行

「News! 甦 vol. 29」 発行：2017年7月5日

- 内容：
- 高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プロジェクトフェーズ3（ルワンダ共和国）のフォローアップが始まります
 - 理事長小玉昌代が米シモンズ大学で名誉博士号を授与
 - ラオス フォローアップ事業の実施報告
 - コラボ商品の紹介
 - 祇園祭チャリティセールのご案内
 - チャリティバザーのご報告
 - 2016年度 活動計算書

「News! 甦 vol. 30」 発行：2017年12月15日

- 内容：
- ルワンダで短期フォローアップ訓練実施
 - 協力者、ボランティアの方へのインタビュー
 - インターンの活動紹介
 - チャリティーバザーのご案内とご報告
 - クリスマスセールのお知らせ

以上